



夏井第二小学校 4・5年生授業風景

「未来さわやか・・・」

自然と共生する

あぶくま拠点都市」の

実現に向けて②

少子化の現状を見つめて

少子化は本当か

みなさんは新聞やテレビなどで、「少子化」や「過去最低の出生率」という言葉を目にした、あるいは耳にしたことはありませんか。先月号の「人口減少」の現状と課題で少し触れましたが、小野町でも本当に少子化が進んでいるのか、出生数の推移から現状を確認します。

小野町の出生数は、昭和40年には年間で322人の出生数となっていました。その数は年々減少傾向を続け、昭和60年代には200人を割り、平成14年には、ついに2桁台となるほど少子化が進行しています。

原因は何か

少子化の背景としては、晩婚化や晩産化、少産化、非婚、未婚率の上昇、核家族化に加え、近年では子供を持たない夫婦の増加などが主な要因とされています。

この背景には、人々の意識の変化や働く女性の増加、生活スタイルの多様化に伴う出産の負担（経済的・精神的負担、住宅事情や仕事との両立の困難さ等）が表面化してきたことなどがあげられています。

このようなことを背景に、子育てが安心してできる生活環境の整備や、児童の健全育成に地域全体で取り組む環境づくりが重要な課題となっています。